

第4学年 社会科学習指導案

令和2年12月8日（火）

高島町立屋代小学校

第4学年1組 児童数40名

指導者 阿部 達也

1 単元名

「置賜に水を 黒井半四郎」

2 単元目標

○地域の発展に尽くした黒井半四郎の様々な苦心や努力，村人の生活の変化について，調査したり地図などの資料で調べたりしてまとめ，当時の生活の向上に貢献したことを理解できる。

（知識及び技能）

○当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して，地域の発展に尽くした黒井半四郎の具体的事例を捉え，黒井半四郎の働きと当時の人々の苦心や努力，生活の変化を総合・関連付けることで，当時の生活の向上に貢献したことを考え，表現できる。（思考力，判断力，表現力等）

○黒井半四郎の業績について，主体的に学習問題を解決しようとし，思考や理解を通して，地域社会に対する誇りと愛情を持っている。（学びに向かう力，人間性等）

3 教材について

現在も多く田畑を潤している黒井堰は，上杉鷹山の時代に建設された。当時，米沢藩北条郷（現在の高島町糠野目地区・南陽市を中心とした地域），特に糠野目より北の地域は，肥えた土地をもちながらも水に恵まれず，長年干ばつに悩んでいた。寛政6年（1794年）5月，米沢藩六人年寄りの一人である黒井半四郎忠寄は，北条郷の水利事業を建議した。鷹山はこれを認め，忠寄を普請奉行に任命し，事業が開始された。この事業は，窪田村千眼寺裏の松川をせき止めて取水し，途中サイホンや樋を設置しながら，全長31.4kmに及ぶ大事業であった。工事は米沢藩と北条郷の村々の協力のもとに行われ，多くの人夫と工匠によって，着手より5年6ヶ月後の寛政11年（1799年）11月に完成した。享和元年（1801年），堰は忠寄の名をとり，「黒井堰」と名付けられた。現在黒井堰は使われなくなった部分はあるが，改修を重ねて，糠野目地区一帯に今も豊かな水を送り続けている。

4 児童について

本学級の児童は，意欲的に話を聞いている児童が多い。資料から読み取ったことや自分の考えを発表する場面では，みんなの前だと恥ずかしいと感じている児童が多く，特定の児童の発言が目立つ。社会科についてのアンケートをとると，社会科が好き・まあまあ好きと答えた児童は28人で，「知ることが楽しい」という理由が多かった。あまり好きではない・嫌いと感じた児童は11名で，ほとんどの児童が，「覚えることが多い」「都道府県が覚えられない」という理由であった。まだまだ都道府県については覚えられていないので，1年間かけて理解させていく。

学習にあたって，調べ学習では，資料から学習課題に関係することを見付け，書くことができるようになってきた。学習問題をまとめる際には，調べて具体的に分かった知識を比較・関連付けた

り、総合したりすることで、抽象化された概念的知識として理解することが少しずつできるようになってきた。資料の読み取りのテストでは、複数の資料から答える問題で誤答が多かった。情報量が多くても必要な情報を取捨選択できるように指導していく必要がある。

5 指導にあたって

本単元は、小学校学習指導要領社会第4学年2内容(4)「先人の働き」に基づいている。学習の問題を追究・解決する活動を通して、「知識及び技能」(イ)では、地域の発展に尽くした先人は、様々な苦心や努力により当時の生活の向上に貢献したことを理解することとある。「思考力、判断力、表現力等」(イ)では、当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して、地域の発展に尽くした先人の具体的事例を捉え、先人の働きを考え、表現することとある。そのことから、水に恵まれず、長年干ばつに悩んでいた村に水路をつくり、多くの田畑を潤す黒井堰をつくった黒井半四郎について学習する。4年生の児童にとっては、歴史的事象について学ぶ機会が少なく、身近な地域の出来事であっても黒井半四郎や黒井堰について知っている児童は少ない。

そのため、「つかむ」では、導入段階で教材に興味や関心をもたせるために、学習マンガを基にその時代の衣食住を紹介する。当時の暮らしについて捉えさせつつ、年表を基に米沢藩や地域の北条郷の村々が、干ばつによって苦勞していたことを確認し、学習問題をつくる。「調べる」では、社会的な見方・考え方である、「位置や空間的な広がり」や「時期や時間の経過」、「事象や人々の相互関係」に着目させ、丁寧に指導する。黒井堰の計画段階で、黒井半四郎がどこからどのようにして北条郷に水を引いたのか調べ、その困難さについて考えたり、黒井堰の工事の進め方を資料で調べ、当時の村人の苦心や努力、思いについて考えたりする。また、黒井堰ができたことで水田が広がったことや米の生産量が増えたことを捉えたうえで、「まとめる」では、調べたり考えたりしたことを総合・関連付けることで、黒井半四郎の苦心や努力により、当時の生活の向上に貢献したことをつかませる。

1時間ごとのまとめでは、キーワードを基にまとめる。その後の学習感想では、学んだことに対して感想を書くことで、理解を深めさせる。黒井半四郎がつくった黒井堰は現在も残り、地域の農業の発展に関係してきたことに気付かせることで、地域社会に対する誇りと愛情を育みたい。

6 単元の評価規準と指導計画

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地域の発展に尽くした黒井半四郎の様々な苦心や努力、村人の生活の変化について、調査したり地図などの資料で調べたりして、必要な情報を読み取り、当時の様子を理解している。	①当時の世の中の課題や人々の願いなどに着目して問いを見だし、地域の発展に尽くした黒井半四郎の具体的事例を捉え、黒井半四郎の働きと当時の人々の苦心や努力、思いを考え、表現している。	①黒井半四郎の業績について、主体的に学習問題を解決しようとしている。
②調べたことを文などにまとめ、黒井半四郎は、様々な苦心や努力により、生活の向上に貢献したことを理解している。	②黒井半四郎の働きと当時の人々の苦心や努力、思い、生活の変化を総合・関連付け、当時の生活の向上に貢献したことを考え、表現している。	

(2) 単元の指導と評価の計画 (全6時間)

過程	時間	ねらい	○主な活動 ・内容	□資料	評価方法と【評価規準】
つかむ	1	江戸時代の農村の生活に興味・関心をもち、北条郷の村々の地形の特徴や災害年表を基に、当時地域にあった課題やそこに住んでいた人々の願いを捉え、学習問題をつくる。	○学習マンガで村人の生活をつかむ。 ・約8割5分は農民 ・衣食住 ・水の必要性 ○当時の地図から地形の特徴をつかむ。 ・村の数 ・村の立地 ○災害年表から当時の地域にあった課題や人々の願いを捉える。 ○黒井半四郎が中心になって水路を作ったことをつかむ。 ○疑問を基に学習問題をつくる。	□日本の歴史「江戸時代の農村」 □農民のイラスト □地図「黒井堰ができる前」 □200年ほど前の地図 □災害年表 □文書資料 □イラスト「黒井半四郎」	ノートの記述内容や発言から「江戸時代の農村の生活に興味・関心をもち、学習問題をつくり、学習計画を立てようとしているか。」を評価する。【態－①】 ノートの記述内容や発言から「北条郷の村々の地形の特徴や災害年表を基に当時の地域にあった課題やそこに住んでいた人々の願いに着目して問いを見いだしているか。」を評価する。【思－①】
	黒井半四郎はどのようにして水路をつくり、人々のくらしはどのように変化したのでしょうか。				
調べる	2	黒井半四郎の工事計画について調べ、工事の困難さを理解する。	○地図や工事年表等の資料を基に、工事の進め方を調べる。 ○黒井半四郎が黒井堰をつくった時の工夫や努力と、その時の気持ちを考える。	□イラスト「黒井半四郎」 □地図「黒井堰ができる前」 □工事年表 □文書資料 □図「松川の水位と取水口の高低差」 □地図「黒井堰ができた後」	発言内容やノートの記述内容から「黒井半四郎の工事計画について調べ、工事の困難さについて理解しているか。」を評価する。【知－①】
	3	黒井堰の工事の進め方を調べ、村人の苦心や努力、思いについて考え、表現する。	○工事の様子のイラストから、どのように工事を進めたのか調べる。 ・工事の道具や仕事の様子 ○工事をしている村人の気持ちを考える。	□イラスト「昔の工事の様子」 □文書「黒井堰の工事について」 □工事年表 □工事のあらまし	発言内容やノートの記述内容から「黒井堰の工事の進め方を調べ、村人の苦心や努力、思いについて考え、表現しているか。」を評価する。【思－①】
	4	黒井堰ができたことで、水田が広がり、米の生産量が増えたことを理解する。	○黒井堰の完成が人々の生活にどのような影響を与えたのかを調べる。 ○黒井堰ができて、米の生産量が増えた時の気持ちを考える。 ・農民 ・黒井半四郎	□地図「黒井堰ができる前と後」 □文書資料 □米の収穫高 □イラスト「農民」 □イラスト「黒井半四郎」	発言内容やノートの記述内容から「黒井堰ができたことで、水田が広がり、米の生産量が増えたことを理解しているか。」を評価する。【知－①】
	5 (本時)	黒井半四郎の働きと当時の人々の苦心や努力、生活の変化を総合・関連付け、人々の生活の向上に貢献したことを考え、表現する。	○「どのようにして水路をつくったか」について、クラゲチャート風にまとめる。 ○「人々のくらしは、どのように変化したか」について、クラゲチャート風にまとめる。	□図「まつかわの水位と取水口の高低差」 □地図「黒井堰ができる前と後」 □米の収穫高 □イラスト「昔の工事の様子」 □工事年表 □工事のあらまし	発言内容やワークシートの記述内容から「黒井半四郎の働きと当時の人々の苦心や努力、生活の変化を総合・関連付け、人々の生活の向上に貢献したことを考え、表現しているか。」を評価する。【思－②】
まとめ	6	黒井半四郎に賞状を書くことで、黒井半四郎の功績と人々の生活の向上について理解する。	○黒井半四郎に向けて賞状を書き、学習問題の解決とする。 ○黒井堰が今も活用されていることを捉える。	□賞状の型 □現在の航空写真 □現在の黒井堰の写真 □黒井堰の石碑	発言内容やノートの記述内容から「黒井半四郎の功績により、人々の生活が向上したことについて理解しているか。」を評価する。【知－②】

7 本時の指導

(1) 目標

黒井半四郎の働きと当時の人々の苦心や努力，生活の変化を総合・関連付け，人々の生活の向上に貢献したことを考え，表現することができる。(思考力，判断力，表現力等)

(2) 指導過程

時間	学習活動，〔○〕主な発問，〔・〕期待する反応	〔・〕指導上の留意点，〔☆〕評価(方法)
5分	<p>1. 本時のめあてを確認する。</p> <p>学習問題の解決に向けて，黒井半四郎について学んだことを整理しよう。</p>	<p>・これまでに使用した資料と学習問題についてふり返る。</p>
35分	<p>2. 「どのようにして水路をつくったか」と「人々のくらしは，どのように変化したか」について，事実を基に整理する。</p> <p>○「どのようにして水路をつくったか」と「人々のくらしは，どのように変化したか」について学んだことをクラゲの足の部分に書きましょう。</p> <p>「どのようにして水路をつくったか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒井半四郎は1年かけて水の流れを調べた。 ・松川に大どいを通して水を流した。 ・高低差を使って水を流した。 ・2000人以上の村人が協力した。 ・くわで土をほったり土を運んだりと手作業でつくった。 ・約6年かかった。 <p>「人々のくらしは，どのように変化したか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒れ地が水田になった。 ・日照りの害がほとんどなくなった。 ・村が増え，45の村に水が通った。 ・たくさんの米が取れ，生活が楽になった。 <p>3. 「どのようにして水路をつくったか」と「人々のくらしは，どのように変化したか」について，事実を基に，総合・関連付けて考えを表現する。</p> <p>○「どのようにして水路をつくったか」と「人々のくらしは，どのように変化したか」について学んだことをクラゲの頭の部分に書きましょう。</p> <p>「どのようにして水路をつくったか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒井半四郎は，1年かけて水路を調べ計画し，北条郷の村のたくさんの人達の協力をえて水路をつくった。 <p>「人々のくらしは，どのように変化したか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒れ地が水田になり，米が取れるようになったり，日照りの害がほとんどなくなったりし，村人の生活がよくなった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの資料やノートで，2～4時間目の学習をふり返る。 ・思考ツール「クラゲチャート」の形を使用し，クラゲの足の小さい丸には，学んできた事実を書き込ませる。 ・クラゲの足の1つ目は，全体で確認する。その後は，グループでチャートに書き込む。 ・なかなか書き込めない児童やグループには，机間指導を通し関係する資料についてヒントを出す。 ・クラゲの足の部分を学級全体で確認して，友達のかかわりでよいと思ったものは記入させる。 ・クラゲの足の部分を参考にさせ，個人でまとめさせる。 ・「どのようにして水路をつくったか」の書き始めでは，「黒井半四郎は」に続くように書かせる。 ・「人々のくらしは，どのように変化したか」では，「荒れ地が」に続くように書かせる。 ・クラゲの頭にマス目を入れ，短文になるように意識させる。 ・よく書けている文を発表させ，全体で共有する。
5分	<p>4. 学習の振り返りを書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ活動で友達と交流したことで，黒井半四郎のがんばりがわかり，学習問題について自分でまとめることができた。村人の生活を向上させた黒井半四郎は，この地域に大きく貢献したことを改めて実感することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りでは，友達のかかわりを通して考えを書くことができた児童を取り上げる。 ☆黒井半四郎の働きと当時の人々の苦心や努力，生活の変化を総合・関連付け，人々の生活の向上に貢献したことを考え，表現しているか。(発言内容やワークシート)

(3) 評価基準

B: 「どのようにして水路をつくったか」「人々のくらしはどのようにへんかしたか」について、前時までの学習事項を例に短文で表現している。

A: 「どのようにして水路をつくったか」「人々のくらしはどのようにへんかしたか」について、前時までの学習事項を根拠に短文にまとめ、表現している。

板書計画

